

令和5年度岐阜県青少年美術展少年部の選定評

絵画・デザイン	幼・保	家庭や園で体験したことや感じたことを表現した作品が多かった。どの作品も子どもたちが自ら見たり、発見したり、想像したりと主体的に取り組んだ作品ばかりであった。今後も子どもたちの感動が生き生きと新鮮な生命感で躍動し、豊かなイメージで自分の想いを絵の中に込める表現や発想の仕方などの個性を大事に育てていきたい。
	小学校 低学年	自分が表したいことを形や色で生き生きと表現した作品が多く見られた。動物、自分、物語の主人公など、思わず描きたくなる題材、表したいことに適した描画材、技法が子どもたちの思いと合致すると、作品から思いが伝わってくる。今後も発達段階に応じた題材、材料、技法を活かした作品づくりを大切にしたい。
	小学校 高学年	見たことや経験したことや物語から着想した絵が多く見られた。その中でイメージをふくらませ、のびのびと表現することを楽しんでいる作品を選定した。結果として、個性的で多様性に富んだ作品が集まったと思う。今後も子どもの思いを大切に、その子らしく表現された絵と出合えることを期待している。
	中学校	対象に対して作者がよりよく表現したいという思いが伝わってきた。自分自身や風景をよく観察したもの、心の中を色や形で表わしたもの、どの作品からも中学生のエネルギーを感じる。新しくデジタルやイラスト表現も増えているが、構図や配色といった普遍のものは大切にしたい。タイトルも工夫し、より思いを表わしたい。
書写	幼・保 小学校 低学年	半紙全体を使い、太い線で力強く書き上げている作品が多かった。ひらがなの形をよく見て、曲線や折れの特徴を表現することができている。一つの作品として見たとき、半紙の汚れや折り目での墨のかすれがあり惜しい。また、名前も作品の一部と考えたとき、題材と同じような完成度まで高められるとよい。
	小学校 高学年	始筆や終筆、筆脈などの基礎基本の力が身に付いており、その力が作品としての美しさにつながっている。半紙をいっぱいに使った作品が多く、どの作品からものびやかさや力強さを感じることができた。学年が上がるにつれ画数が多く字形が難しい文字に挑戦している。名前も作品の一部として丁寧さを心がけたい。
	中学校	穂先の動きと点画のつながりを意識していることや文字の大きさ・配列を考えて書かれていることから、どの作品からもよく練習を重ねてきたことが伝わってきた。力強い楷書の筆遣い、その基本を生かした柔らかな行書の作品が多かった。毛筆で書いた文字の表現の豊かさや美しさに触れる機会を今後も大切にしていきたい。